

中高年世代にとっての男女共同参画とは？ 様々な活動に参加することで、自らの人生をより豊かなものにしているNPO法人静岡団塊創業塾のメンバーに語ってもらいました。

(赤堀三代治)

NPO法人静岡団塊創業塾

座談会

『シニアライフの男女共同参画を考える』

(座談会をはじめるにあたって)

司会

過去発行の「ねつとわあく」を紐解いてみると、46号（平成17年3月発行）「探訪・団塊の世代～仕事で・地域・家庭で～「男女共同参画と団塊の世代を考える」が

特集されました。46号発行から12年。今回の69号で再び団塊世代の人々を中心にして、「シニアライフの男女共同参画」というテーマを取り上げることになりました。

今日は、NPO法人の様々な活動に参加することでの、自らの人生をより豊かなもの

司会 創業＝起業とも解釈できると思うのですが、このあたりのことを聞かせてください。

KAZさん 法人設立前の2007（平成19）年に起業・創業を目指すビジネスセミナーに参加した気の合う仲間が、定期的に集まり、繋がっていました。メンバーは50歳代後半。法人立ち上げ時のミッションとして、ビジネスとしての起業にとどまらず、地域活動や個人としての新たな行動を創出していくことを、視野に入れました。この法人と関わりを持つ多くの人々が、ビジネスに限らず、趣味でもネットワークでも何でも良いから、みんなでより豊かなシニアライフを目指そう、とうの思いをこめて「創業塾」と名前をつけました。

「創業」の意味

「運営と男女の役割について」

にじこぐの皆さんに集まつていただきました。

皆さんから話を聞きながら、シニアライフの在り方にについて、男女共同参画の視点で共に考えてみたいと思います。

男女共同参画社会とは縁遠い環境の中で育ってきたシニア世代の人々が、NPO法人静岡団塊創業塾での活動に参加することで、「男社会」「女社会」の概念からどのようにして解き放たれていたのでしょうか。そして、より豊かなシニアライフをどのように送られているのでしょうか。参加者の皆さんのお話を聞かせてください。

司会 編集員 赤堀三代治（男性66歳）
参考者 NPO法人静岡団塊創業塾のメンバー

8人プラス1人

ムーさん（男性69歳）

ベルちゃん（女性68歳）

ユメコさん（女性67歳）

モンちゃん（女性67歳）

ママさん（女性66歳）

KAZさん（男性64歳）

しんさん（男性63歳）

マージュさん（女性59歳）

まつちゃん（女性76歳）*座談会には

参考していらないが文中で登場

いが行き詰つてしまつた。この時、男性メンバーから「やせつ女性メンバーがつてほし」の感想が出来ました。常に女性も参加してつたので改めて気づかされました。それまで、お互いの存在を尊敬しながら、対等な関係で関わつてきました。

～居場所「くれば」の存在～

司会 静岡市の繁華街西参町における拠点、居場所「くれば」の存在は、法人の運営上、非常に大きかったと思います。このようにつて聞かせていただけますか。

ママさん 女性が集まる場所は市内にいくつあります。くればは「男性も集まるやすい場所にしたい」と意図して運営してきました。誰かで、皆さん一緒に運営してもらいたいと確かです。皆さんが安心の場所にしたい」とあります。

ママさん おひたしの通りの通りと聞いています。従来からある井戸戸ガループ等をイメージしていた女性がいざ、「おれには行きたい」と言われてくることがあります。いつもともあり、おえじ、女性も足を運んでくれる「和装」のものでイベントセミナーを実施したりして工夫をしていますが、近隣の方

が気軽に立ち寄れる環境づくりに向けて、改善の余地はまだあると感じています。

他方、市内でも遠方の地域かい、



毎週必ず顔を出していくれるメンバーもつきました。今日は参加してきましたが、会員のまつわさんは自分の地域にむづづかずな集まりの場があるけれど、地域での参加はやだと言つてきました。「中間話や、講話ばかりに終始してつらくなかった」みたいですね。

「くれば」がつむじや腰心地が良くていいのが聞かれます。男も女もなんなくここにきていたりするのが聞かれます。

話を聞いてもらいました。束縛されなくて、まつわさんは昨年突然、「くれば」を訪ねて来てくれました。夫は死別、子供もたたかず独立。一人暮りこになつて中間話や腰心地を輝かせていました。

KANさん 会員の中にはおつかやさんのつな方が何人かいます。「くれば」で玉ねぎ、仲間を見つけて、やがて前進していく姿を見ます。この場の大切さを実感し、法人の活動のこれからの方向性、ひとりのヒントをつただしてつぶやかされました。

ママさん 私は、この他の男性のみサークルにも所属していました。やがて、この腰心地、男性だけではなく、女性も参加してくるようになりましたが、よく分かります。

KANさん 先日、この法人を視察に来られた県認定のある団体で、ママさんが所属してつるサークル同様に、男性ばかりのメンバーが多い。女性も輪の中に入つてきました。私がどのよろか、ヒントを教えてほしがついたのか、ヒントを教えたところでした。私たちも、創立時から、この場に男性も女性もいて、ど

く自然にお互いが繋がりながら、共に活動をつきました。豊かなシニアライフを過ごしていふ上で、「男女共」のことはとても素敵なものであります。お姉さん、お兄さんと一緒に感謝したと感じました。

ベルちゃん 私は地域などの女性のみの集まりにも参加していますが、違和感も感じて、女性のもの雰囲気などもありますか、感

情的な話に興味がある人もあります。女性のみの活動と、男女一緒に活動の両方を知つてみると分かるのは、いじはゞ自然

であります。女性の腰心地が良くなります。女性の腰心地が良くなります。

ママさん 私は退職するままで、女性のみの職場で働いてきました。どちらかで、ベルちゃんに感動ですね。この間に関わるものになつて、男性も女性もフリッパーな関係でねつき合つても、利害関係も、餘程な感情も全くなつて、ひとや「腰が楽」。「心地いい」ですね。

参加者全員 「腰が楽」。「心地いい」。こうね。まったくその通り。

ママさん エンカやんが活動つづける一つのボリューマンスの世界は、じつに感じます。

モチヤ 私が所属している団体は女性のみですが、女性のみで違和感はないですか。また、男性メンバーのみの団体、男性女性混在の団体とも頻繁に交流がありますが、これでも、まったく嫌なことはないですね。性別や年齢に関係なく、グループ内外のお互いの存在を尊重しながらやつてゐると思います。同じ目標に向かつて取り組んでいる人が良いのかと思つます。

マージュねこ 私は、この場に来て、つつも何かしら持つて帰れるかととても嬉しいです。私は、今日の参加者の中ではあります。お姉さん、お兄さんと一緒に感謝したと感じます。

参加者全員 「ええ。ねらいが(爆笑)」。未じむむし田舎の仕事を、20年携わつてきましたが、諸事情により、業務を整理。主婦業に加えての業務と、おの頃は本当に大変でした。思ひ出すと涙が出てしまいます。これからの自分の人生をじつはよつと想像してた頃、この辺りの仲間に入れてもらいました。

交流を深めぬ中で、みなさうかのパワーをもつて自分もいれかの何かでやるんだ」とこの腰心地になれます。これからの人生を豊かに過ごしたと腰のものになりました。おかげで私は起業家としてもじき、本日は樂して充実した毎日を送っています。性別の差、年齢の差等、隔たりがあつたくなり、みんな同じ位置に立つてつぶやきが何とも心地よかったです。

話をしつかり聞いてくれるし、アドバイスも頂ける。否定されるとほんとうに気がかりれる。おるやかに腰が繋がつてゐる。

～家庭でのパートナーとの関係の変化～

司会 この活動に参加するものになつて、家庭での妻、夫との関係に変化が生じましたか。家庭の役割分担等に変化は生じまし

たか。

パートナー以外の異性との関わりにどう的な変化が生じたかなど、聞かせてください。

洗いや、洗濯物を干す等手掛けています。
参考者全員 すじい。（爆笑）

ユメコさん 私は共働き世帯でしたが、夫

は、男女の役割に関して、従来の在り方論に固執してきました。定年後は、少し改めてほしく、家事にも参加してほしくと、私の思いを伝えてきましたがなかなか動じてくれませんでした。でも、最近では、少しずつ彼ができるところから、動いてくれます。

◆シニアライフとは（内閣府関連資料）
団塊の世代を中心とした中高年層65歳以上の人々の生き方、生きる姿。

◆男女共同参画社会とは（内閣府関連資料）
男女が社会の対等な構成員として自らの意思で社会のあらゆる分野の活動に参加する機会を有し、政治的・経済的・社会的および文化的利益を均等に享受することができ、ともに責任を担うべき社会。

しんさん 私の妻は看護師です。結婚する前に、確か「看護婦の父ちゃんがんばる」※というタイトルの映画を観に連れていかれました（参加者全員、爆笑）。観客は看護師さんばかり。男性はわずかでした。男性もがんばらないと家庭が回っていかないことを知りました。家事や子育てを分担しながらやつてらぐじが当たり前、と結婚当初から思っていたので、現在も抵抗なく普通に自然にやっています。

ママさん きっと、できるようになると思うよ。大丈夫だと思つよ。やはり言わなきやうから、これから期待したいと思います。

ムーさん 定年前までは、家事いつさばは境にじろじろやりなければならぬと思っていました。私は、最初は「手伝う」感覚でやつてしまましたが、それは「手伝う」ではないよ、と妻がいわれました。私の定年後も、妻はボランティアと習い事をしていますので、私が家事を分担したり、妻を駅まで送迎したりすることは、全く自然ですよね。まあ、いろいろ、やっていますよ。

ユメコさん それはわかっているんだけど、つらつら言つ過ぎてしまつ。忙しい時は特にね。

男女共同参画社会とは縁遠い教育や環境の中で育ちシニア世代になつた人々が、NPOの活動に参加することで、従来の「男社会」「女社会」の概念から解放され、かなものにしてじりじりしゃる皆さんに集まつてもうじい、座談会を開催することができます。時間かけて、丁寧にフォローシングなどが大切だと思いました。

◆シニアライフとは（内閣府関連資料）
団塊の世代を中心とした中高年層65歳以上の人々の生き方、生きる姿。

◆男女共同参画社会とは（内閣府関連資料）
男女が社会の対等な構成員として自らの意思で社会のあらゆる分野の活動に参加する機会を有し、政治的・経済的・社会的および文化的利益を均等に享受することができ、ともに責任を担うべき社会。

（NPO法人 静岡団塊創業塾とは）
2007（平成19）年1月、SOGOしづおか主催セミナー「団塊創業塾」の受講生がOB会を結成。

2011（平成23）年11月、「静岡団塊創業塾」としてNPO法人化。拠点となるシニアライフ支援センター「くれば」を静岡市葵区西替町に開設し、地域デビュー支援事業を開始する。2017年8月現在の会員数は100人。

◆シニアライフとは（内閣府関連資料）
団塊の世代を中心とした中高年層65歳以上の人々の生き方、生きる姿。

◆男女共同参画社会とは（内閣府関連資料）
男女が社会の対等な構成員として自らの意思で社会のあらゆる分野の活動に参加する機会を有し、政治的・経済的・社会的および文化的利益を均等に享受することができ、ともに責任を担うべき社会。

座談会を終えて

男女共同参画社会とは縁遠い教育や環境の中で育ちシニア世代になつた人々が、NPOの活動に参加することで、従来の「男社会」「女社会」の概念から解放され、かなものにしてじりじりしゃる皆さんに集まつてもうじい、座談会を開催することができます。時間かけて、丁寧にフォローシングなどが大切だと思いました。

メンバーや皆さんの、NPO活動や家庭での「男女共同参画による豊かなシニアライフ」の実践の様子に、勇気づられる方が多いと思います。これからも、輪を広げていってください。

（NPO法人 静岡団塊創業塾の「創業」の意味）、「運営」と男女の役割について、「居場所」「くれば」の存在、「家庭でのパートナーとの関係の変化」等お話を聞せてもらいました。

私の中では、本日の座談会の場で皆さんのお気持ちを表すキーワード、「フワットな関係」「心地よい場」「ゆるやかな繋がり」がとても印象的でした。

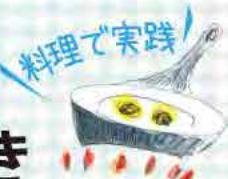
用語の定義

「情報交換」と「情報発信」を行なながる、中高年世代が、仕事や趣味、社会貢献を通じて「繋がり」「学び」「行動」ができるよう支援する。

男性会員も女性会員も対等な立場で、それぞれの特性を生かしアイデアを出し合い、互いに協力し合うことを楽しみながら活動を続けていく。



新熱海男料理教室・ABC
(アクミボーリスクラッキング)



『元気で長生き 仲間づくり』

仕事から解放され、自由に使える時間が増える定年後の人生。前向きに、積極的に社会と関わり合い、男女共同参画社会実現の手段の1つとして料理に取り組むシニア男性が増えている。

会員主体、
積極的に学ぶ料理教室

や神奈川県からも集まる。最高齢は82歳。会員の平均年齢は76歳。毎回90%以上の参加率と聞くと、参加者がどれだけ料理教室を楽しみにしているかを、うかがい知ることができる。

この教室は受け身の料理教室ではなく、会員が積極的に料理を学び実践する場。講師の斎藤さんからは、栄養があり美味しい、そして簡単に作れることができる料理を学んでいる。これは、会員が1週間に一度でも、習った料理を実際に家

た。その後、「回数を増やして欲しい」「料理の腕をさらりと上げたい」という会員の声により2014（平成26）年11月、下部組織から独立し、「純粹に料理の世界を追求し、男たちの人生を語り合いたい会」である新しくABCが誕生した。講師には、トレンジの料理番組にも出演している女子栄養大学の斎藤君江さん（熱海市在住）を迎えて、さらなるレベルアップを目指し現在も活動を続けている。

ボーリス・ケッキンクは「元気で長生き仲間づくり」をモットーに、熱海ガスのレモナキッチンを会場として活動する、会員主体の料理教室。2010（平成22）年6月に熱海市健康づくり食生活

料理から見えてくる
家庭での共同参画

「以前せ、妻が外出から帰ってきて料理の支度をしていました。今は、私が妻の帰宅時間に合わせて温かい料理を作つて待っています。料理を作るようになって妻から感謝されています。他の会員の家庭も同様で、家族から褒められ感謝されるとの声を聞きます。何より夫婦で料理の話が弾むのが嬉しいですね」と、会長の一瀬一之さん。

レハビリ「呑み会」「調理」「正力」もどの一連の流れを経験して、「料理」から見えてきたことがあると一瀬さんは即ち。

有意義で楽しいです
定年退職まで勤めることができたのは妻・家族の理解と協力があったからこそ時間にゆとりができた今、夫婦で料理や家事に取り組むことで、「元気で長生きなシニアライフがエンジョイできる。」

「働き」と異なるべきです。実際に料理をしてみて分かったことです。これからのミニアーバンライフを見据えた場合、料理や家事は妻に任せっきりにするのではなく、夫婦で理解し合い、助け合って取り組みたい大きな仕事だと言えます。家事参加は

妻は1日3回家族のために料理を
てきました。娘が中学・高校生の6年間
は、毎日欠かさず弁当を作つ
てもらつた。そこで、買ひ

るとの声を聞きも。何より夫婦で料理の話が弾むのがうれしいですね」と、会長の一瀬一也さん。

「ハラウ」はセ「圓山ヨウ」(調理)「ヒロ」(火) おひの一連の流れを経験して「料理」から覗いてみたいといふと一瀬さんはい。

「以前は、妻が外出から帰ってきて料理の支度をしていました。今は、私が妻の帰宅時間に合わせて温かい料理を作つて待っています。料理を作るようになつて妻から感謝されています。他の会員の家庭も同様で、家族からの感謝をうけます。

は、毎日欠かさず弁当を作っていたのです。そして、買ひ出しちゃらんだけ、これは「大きな労働」です。料理や家事は、外で働く「労働」と対等な「労

〔問い合わせ〕
ABC（アタミ・ボーズ・クッキング
会長一瀬一之さん
携帯090-2947-0769

ク開催年には、オリンピックに向なんだ
料理を作る」と目標に、余賀同士お互い
に励まし合い助け合っていふ。料理を通して、
健康で生き生きしたシニアライフを実践中の会員の姿に、これからのシ
アの生き方を見ることができた。

國井良子



▲一瀨会長